



おすすすめの一冊

土屋廣幸『文科系のための遺伝子入門』

2 003年ヒトゲノム計画が完了し、ヒトのDNA配列の全容が

明らかになりました。以後の遺伝子解析技術の進歩は目覚ましく、遺伝子と病気や性格、さらに心の問題との関係が次々と解明されています。最近では、DNAを自在に改変できるゲノム編集技術が確立され、遺伝子治療への期待が大きく膨らんできました。遺伝に関する知識や理解力（リテラシー）が、今ほど人々に求められている時代はありません。

『文科系のための遺伝子入門』は、遺伝リテラシーを身につけるための、格好の図書といえます。小児科の医師である著者は、行動遺伝学、発達心理学を長年の研究テーマにしてきました。『性格はどのようにして決まるのか』や『遺伝子を生かす教育』（訳書）などの著作もあり、性格に及ぼす遺伝と環境の役割や教育の重要性について、深い見識を持っています。

第1章「遺伝子の役割」では、誰に



文科系のための遺伝子入門
よくわかる遺伝リテラシー
土屋廣幸
新曜社

もなじみのあるABO血液型の成り立ちから入り、メンデルのエンドウマメの実験を詳しく解説し、遺伝の法則を丁寧に入れてくれます。第2章「染色体とDNAと遺伝子」では、混乱しやすいこれら3つの基本用語を平易に解説してくれ、遺伝というものの全体像がつかめるようになります。続く各章

では、遺伝子の複製、遺伝子の本体であるタンパク質の話、遺伝子の異常と病気の関係などが、具体的な例を引きながらわかりやすく述べられていきます。最終章では、遺伝子をめぐる最近のトピックスが簡潔にまとめられています。iPS細胞、ヒトゲノム計画、が

ん関連遺伝子、DTC遺伝学的検査、そしてゲノム編集まで、日常お目にかかる項目ばかりです。一読すれば、さまざまな遺伝子関連記事がきつと身近に感じられるようになると思います。各章の最初にはキーワードが示され、章末にはゴシック体で要点がまとめられるなど、知識を整理するためのさまざまな工夫がなされており、優れた入門書となっています。

題名は『文科系のための遺伝子入門』とありますが、医療専門職の方々にも、知識の不備を補う上で有意義な本であると考えられ、おすすすめしたい気持ちです。

著者は「あとがき」で、遺伝子が単に医学・薬学・生物学にとどまらず、政治・経済・社会など幅広い分野で利用されていく状況を指摘しています。そして、ヒトとは何かという根本的な問いかけに思いを馳せてほしい、とのメッセージを読者に投げかけているようです。

渡辺 巖太郎

わたなべ げんたろう
株式会社健康教養デザイナーズ代表
1975年順天堂大学医学部卒業後、細胞遺伝学、内科学を専攻。1982年より大手銀行専属産業医として産業医学の理論と実践に関わる。2016年より現職。